

## 1 学校教育目標

人権尊重の精神を基盤とし、規範意識と豊かな個性、創造力をもって社会に貢献しようとする精神を培い、心身ともに健やかで夢や希望を実現する自立した人を育てる教育を推進する。

- ・進んで学ぶ生徒
- ・思いやりのある生徒
- ・根気強くやりぬく生徒

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力(人間力)を育成する学校</li> <li>・学ぶ力、確かな学力を身に付けさせ、心豊かな生徒を育てる学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで学ぶ生徒</li> <li>・思いやりのある生徒</li> <li>・根気強くやりぬく生徒</li> <li>・自ら学び、ひとから学ぶ。豊かな人間関係を築き、自分の個性や特技を伸ばす</li> <li>・互いに支え、協力し、思いや考えを共有する。自分と等しくひとを大切にする</li> <li>・努力することの価値を認め、自分を信じて向かい続ける</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を大切にし、自ら学び続ける教師</li> <li>・保護者や地域に信頼される教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 【学校の現状】

- ・授業は比較的落ち着いた雰囲気であり、生徒は真面目に授業に向かっている。家庭学習の習慣を身につけることができず学力が定着しにくい。
- ・多くの保護者や地域は学校の教育活動に理解を示し協力的である。
- ・英語において習熟度別少人数指導、数学においてチームティーチングによる授業展開を実施し、学力の定着・向上と学習意欲の伸長に取り組んだ。
- ・年度ごとの生徒の増減による教員の異動により、継続的・系統的な教育活動に難しさもある。

### 【生徒について】

#### <成果>

- ・規範意識を高くもって学校生活に積極的に関わっており、生徒会活動、委員会活動、部活動に積極的に取り組んでいる。
- ・「立志の時間」(総合的な学習の時間)での調査・研究・発表を通して、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身に付けた。

#### <課題>

- ・主体的に学習に取り組む意欲が高くない生徒が未だに目立つ。家庭で自ら学習する習慣が身につけておらず、学習内容を定着させられない生徒が多い。
- ・読書習慣のある生徒が少ない。読解力や想像力が十分に育っていない一因と考えられる。
- ・真面目ではあるが、目的意識や自ら解決しようという意欲が低く、大人の指示を待つ、指示に頼ろうとする傾向がある。

### 【教職員について】

#### <成果>

- ・「生徒の主体性を生かした授業改善」「生徒に考えさせる授業作り」「評価と指導の一体化」、「生徒の特性に応じた学習指導」について研修を深めた。
- ・生徒指導において、校内支援委員会及び生活指導部会を基盤に支援と指導の両面から全教職員共通理解のもと、組織的に生徒の課題に対応した。

#### <課題>

- ・若手教員が半数を越え、年々平均年齢が下がっている。経験の少なさを熱意で補っている状況である。
- ・ベテラン層や中堅層が少なく、意図的・計画的で組織的なOJTの実施、研修の運営など、授業改善のための教員の資質向上の取組に難しさがある。

### 【地域、保護者について】

#### <成果>

- ・開かれた学校づくり協議会やPTAが中心となって、花壇の整備等、学校環境整備がなされた。

<課題>

・学力向上のためには自ら学ぶ意欲が重要であることを家庭と共有する。家庭学習の定着に関して、家庭との協力体制を構築し、推進していく。

#### 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	生きる力①（自ら学ぶ力を育成するための）学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	生きる力② 見通しをもって未来を生き抜く「人間力」を育む教育	○	○	○	○	○
3	生きる力③ 他者と協力し共生社会を生き抜く「思いやり」と「豊かな心」を育む教育	○	○	○	○	○

#### 5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		生きる力①（自ら学ぶ力を育成するための）学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)		コメント・課題			達成度 ◎○△●	
基礎学力・学ぶ力の向上 ・生徒の主体性や思考力を育成する授業づくり（栗島中授業スタンダード）を確立し推進する ・目指す生徒像の共有を基盤に、カリキュラムマネジメントの視点からの全教育活動をとおして生徒の学ぶ力を育成する		・目標通過率：55% ・正答率：当初55% 確認テスト（2月）60% ・独自に設定する生徒への意識調査を年3回実施し、肯定的評価を年間通して向上させる ・教員向けアンケートを実施し、年間を通して取組状況と成果値を向上させる	・目標通過率は51.8%だった。特に3年生の通過率が23%と低かった。 ・正答率は55.4%だった。1年生の正答率は71.7%と70%を超えた。 ・生徒意識調査では、「学校の授業は楽しい」という項目では3回の平均が82.8%と良好だが、「学校の授業はどの程度わかりますか」は56.7%だった。		・3年生については、前期の放課後補充教室やテスト前の質問教室等の実施をし、学校全体で基礎学力の向上に取り組むことができた。 ・2年生については、英語の通過率の向上にポイントを置き、成果発表授業において、指導主事から指導・助言を受け、継続している。GTECの結果に期待したい。 ・目標通過率や生徒率は低いですが、学校への授業の思いは良好である。来年に生かしたい。			●	
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 継続	授業の充実	全学年 全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の主体的に学ぶ力の育成をめざし、以下の2から4の取組を通して生徒の思考的な活動場面を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意識調査（生徒用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習に積極的に取り組んでいる」の肯定的評価が全教科平均85%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して、小中連携指導案を一人1回以上作成し、単元を見通す指導し、共通の授業評価シートを活用できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度はICTの活用を踏まえ、小中連携形式の指導案を年に1回以上作成し、授業の充実を図る。</li> </ul>	△
2 継続	「考える授業」「問いをもつ授業」の充実	全学年 全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画に小さな問いと大きな問いを設定し、生徒の思考を促す。</li> <li>・生徒の考える習慣と課題解決に対する自信をもたせ、学習に対する当事者意識をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意識調査（生徒用）</li> <li>・指導状況調査（教員用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連設問の肯定的評価を、第1回（年度始め）から3回目で増加させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活意識アンケートの関連する設問の肯定的評価は、第1回から第3回の平均は84.2%であり、高い水準である。</li> <li>・教員の指導状況調査では、小さな問いと大きな問いの設定については、81.8%だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、教員共に1時間の授業の中で、生徒が考える時間を確保し、日頃から考える習慣が身につくように工夫していると実感している。来年の区調査の無回答率を減らしたい。</li> </ul>	○
3 継続	「ねらい」の提示と「振り返りの時間」「まとめ」の充実	全学年 全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒がイメージしやすく学習の見通しがもてる「ねらい」の提示を工夫する。</li> <li>・授業の最後に各自がこの時間で何が分かったか、何が分からなかったかを個人で振り返らせる。</li> <li>・全体のまとめと個人の振り返りを通して学習調整力を育て、家庭で自主学習しようという意識付けにつなげる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意識調査（生徒用）</li> <li>・指導状況調査（教員用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連設問の肯定的評価を、第1回（年度始め）から3回目で増加させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活意識アンケートの関連する設問の肯定的評価は、第1回83.7%、第2回81.1%、第3回79%であり、高い水準である。</li> <li>・教員の指導状況調査では、見通しをもった授業については、95.5%だったが、「ねらい」と「まとめ」の正対については63.3%だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が学習の見通しをもてるよう、英語科では黒板の左にメニューと示した。</li> <li>・数学科など授業の振り返りにICTを活用する教科が増加した。</li> <li>・家庭学習については、まだまだ、習慣化されておらず、学校全体での取組を計画している。</li> </ul>	○

4 新規 (確認)	I C T 機器 の有効活用	全学年 全教科	通年	・授業でのタブレットの 活用を計画的に設定し、 有効な活用方法、活用場 面を広げていく。	・指導状況調 査（教員用）	・関連設問の 肯定的を毎回 90%以上	・I C T機器の有効 活用について、肯定 的意見が 76%だっ た。	・I C Tを活用する 機会を増やし、タブ レットの道具として の活用について、小 中連携研究を推進す る。	△
5 継続 (確認)	朝読書	全学年	毎日	・毎朝 15 分間の読書時間 (朝読書)を設定し、読 書習慣の定着と、読解力 の向上を図る。	・学習意識調 査（生徒用）	・読書に関連す る設問への肯 定的評価の年 間を通した向 上 ・国語科の「読 む力」の向上	・学習意識調査の「1 ヶ月に本を 2 冊以上 読む」生徒の肯定的 な回答は区の平均を 4 ポイント下回った。	・図書委員会の主体 的な取組として、学 級文庫の設置、図書 だよりでの読書の効 果について発信がで きた。	△
6 継続 (確認)	学力アップ タイム	全学年	毎日	・年間計画に沿って基礎 学力の定着を目的に、学 習コンテストに向けた課 題や、A Iドリル活用な どを通して、個に応じた 課題に取り組ませる。	学習コンテス トの結果	・学習コンテス トの目標値達 成率	目標値達成率 ・国語 65% ・数学 43% ・英語 61% ・社会 60% ・理科 67%	・学力アップタイム を充実させるため に、全学年目標達成 率を 70%以上とす る。	△
7 継続	学習コンテ スト	全学年 ・国語 ・数学 ・英語 ・社会 ・理科	実施日 3 週間 前より 放課後 の学力 アップ タイム を活用	・各教科が、基礎知識の 定着度の確認などコンテ ストの目的を定め、出題 を吟味して実施する。 各教科で各生徒が自分の 力に応じて目標点を定め、 生徒自身に各自の目 標点を設定させて取り組 ませる。 ・採点を生徒各自が行い、 自己の課題を見出させる。	漢字：5月 計算：10月 英語：7月 社会：12月 理科：1月  目標値を実施 前に立てさせ プレテスト後 に修正させる	・全生徒が根拠 をもって目標 値を立てられ る。見とり方は 教科が検討す る ・各自が定める 目標点に達す る生徒が 80% 以上	・各教科、当初目標 値、プレテスト、修 正目標値、最終得点 と個人で目標を設定 する機会を確保し た。 ・各教科、目標達成 率は 60%であった が、個人内の成長に 注目すると飛躍的に 点数が伸びた生徒が 30%ほどになった。	・生徒の設定の意思 を尊重している。目 標設定値と目標達成 率のバランスを考え られる生徒の育成が 課題である。	○

8 継続 (充実)	サマースク ール	全学年 ・国語 ・数学 ・英語 ・社会 ・理科	夏休み 7日間	・小中で連携して、学習のつまずきを解消できる力をつけるため、少人数指導のもと、学習への興味の喚起と、知る・分かる喜びを感じさせ、学習意欲の向上を図る。 ・各教科が内容を工夫し、生徒の学習意欲を喚起する	事前、事後のアンケートで生徒自らの意欲や達成度の変化を見取る	・生徒自身が振り返り、学びたいものが学べた、自ら進んで取り組んだなど肯定的評価が90%	・生徒自身が振り返り、学びたいものが学べた、自ら進んで取り組んだなどのアンケートにおいて第1回から第3回の肯定的評価の平均が91%と目標を達成できた。	・国語、数学、英語のみではなく、社会、理科の講座を設定することができた。基礎コースと発展コースを実施し、生徒の学ぶ意欲を喚起することができた。	◎
-----------------	-------------	--	------------	---	--------------------------------	---	---	---	---

<b>重点的な取組事項－2</b>		生きる力② 見通しをもって未来を生き抜く「人間力」を育む教育			
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
・生徒の主体性を生かした取組の充実		・生徒アンケートにおいて、主体的な取組に関する問いに対して、肯定的評価を85%以上にする。 ・各取組についても評価する。	・生活意識アンケートの「勉強すれば、自分は良い成績がとれる」の肯定的回答が第1回は84.6%だったが、第3回は91.4%に増加した。	・学校生活全般で生徒の主体性を生かした取組をさらに充実させ、人間力を高めていく。	○
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
主体的に考えて取り組む態度の育成	・作文、振り返り、生徒アンケートでの肯定的評価が全体で90%以上	・学校行事ごとに生徒の実行委員会を組織し、運営等に主体的に取り組ませる。 ・生徒主体で生徒会朝礼、学校紹介、部活動体験などを企画・運営させ共有させる。	・学級で、係や委員会などで貢献したい肯定的な回答は第1回84.2%から第3回87.1%に増加した。 ・生活指導部担当教員により、生徒主体の生徒会運営や委員会運営が活発になった。	・生徒会が新たな4本の柱を活動の中心にし、活動を始めた。また、校内のきまりについても生徒の声を聞き、検討することができた。	○

総合的な学習の時間 (立志の時間)の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒への振り返りアンケート、作文での肯定的評価が95%、主体的取組が85%</li> <li>保護者アンケートで立志に関する項目で肯定的評価が85%</li> <li>教員向けアンケートを実施し評価する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人研究のポスターセッションで主体的な課題設定・解決、プレゼンテーション能力を育てる。</li> <li>グループ発表を通して、対話的に課題解決をはかり、考えを深めさせる。</li> <li>立志の時間で育てた能力を生かし、主体的に学習する態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートで肯定的回答は84.1%で主体的な取組の目標には届かなかった。</li> <li>保護者アンケートで肯定的回答が76.1%であり、85%には到達できなかった。</li> <li>立志の時間で育てた能力を生かし、主体的に学習する態度を育てることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習発表会、立志発表会において、自ら進んでテーマを選択し、探求型の学習を実施することができた。また、生徒一人一人が活躍する場を設定することができた。</li> <li>栗島中の伝統的な立志の時間を改善していく。</li> </ul>	○
進路指導、キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒への振り返りアンケート、作文での肯定的評価が95%、主体的取組が85%</li> <li>教員向けアンケートを実施し評価する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場体験、上級学校調べ・職業講話等を通し、将来の夢や希望を広げる。</li> <li>東京都英語村 TGG (TOKYO GLOBAL GATEWAY) での体験活動を実施する。</li> <li>食育、保健指導、歯科指導を行い、自らの健康に関する意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活意識アンケートの「将来の夢をもっていますか」の肯定的回答は第1回から第3回までの平均が72.7%と基準に届かなかった。</li> <li>2学年において、TGGでの体験活動を実施し、英語力の向上に役立った。</li> <li>月一度の食育朝礼の実施、日々の保健指導により、健康に留意する生徒を育成できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育を充実させ、生徒の進路選択の幅を広げることにより、様々な生き方、在り方を考える授業を推進していく。</li> <li>日常生活の基盤となる健康教育、食育、心のケアについて、強化していく。</li> </ul>	○

<b>重点的な取組事項－3</b>		生きる力③ 他者と協力し共生社会を生き抜く「思いやり」と「豊かな心」を育む教育			
<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>人権尊重意識の向上</li> <li>いじめの根絶・自己肯定感の伸長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の感想文や人権に関するアンケートを実施し90%以上の生徒が人権意識を高めたと回答する。</li> <li>生徒アンケートにおいて、学校生活の満足度等の肯定的評価が90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活意識アンケートの「学級では、自分が困っていたら周りが助けてくれた」という設問の肯定的回答は、第1回から第3回の平均は93.9%であり、基準を達成した。</li> <li>生活意識アンケートの「学校に行くのが楽しい」という設問の肯定的回答は、第1回から第3回の平均は88.9%であり、概ね基準に近づけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らを大切にする気持ち、相手を思いやる気持ちについては、1年間生徒に講話を実施した。高い数値に甘んじることなく、日々変化する人間関係に注目して、生徒に寄り添った指導を実践する。</li> </ul>	○	

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権尊重意識の向上 (いじめの防止と根絶)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての生徒が人権課題を意識し、自分なりの考えをもっていることを生徒アンケートや作文から確認する。</li> <li>生徒の課題に組織的に対応し、解決の方向性を確認できている。(校内支援委員会、生活指導委員会、学校生活アンケート等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活アンケート、いじめアンケート、SCや養護教諭、担任等の情報で生徒の課題をすばやくとらえ、組織的に対応する。</li> <li>校内支援委員会、生活指導委員会を週1回実施し、情報を共有し、早期に組織対応していく。また、SCやSSWとの情報交換を密にし、計画的な支援を行っていく。</li> <li>教育相談週間を設定し、全生徒と教員との面談を実施し、一人一人に寄り添った生徒指導を行っていく。</li> <li>特別支援学級と運動会、フライングディスク、ビーチボールバレーなど積極的な交流を行い、共生を通して人権感覚を身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめについては、いじめ防止対策委員会を年に3回開催し、いじめの未然防止などに迅速に対応してきた。</li> <li>特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援委員会、生活指導委員会を週1回開催し、情報を基に改善策を実施できた。また、教育相談コーディネーターが不登校生の気持ちに寄り添った対応を提案し、生徒への支援を行った。</li> <li>教育相談における保護者・生徒の声を学校全体で共有し、素早く悩みの解決の糸口を見つけられた。</li> <li>日々の委員会活動や学校行事を通して、交流することができた。また、お互いを思いやる感覚を育成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止会議の議事録を見直すことにより、継続して悩みを抱えている生徒への支援を心がけることができた。</li> <li>配慮を必要とする生徒への対応を丁寧に行ってきた。そのため、授業での大きなトラブルを防止できた。今後も保護者との連携を強化していく。</li> <li>こまめに教育相談を実施することにより、生徒の心の変容を受け止めることができた。</li> <li>特別支援教育の充実を図ることができた。</li> </ul>	○
豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校・学年行事、道徳授業等の感想で、多くの生徒が思いやりの心や他者を認める感情が高まったことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員のローテーションによる道徳の授業を実施し、全教員で道徳に関わりをもち、計画的に道徳教育を推進していく。</li> <li>地域行事やPTA行事、ゆめはなプロジェクト(花壇づくり)などに多くの生徒が関わり、地域の一員としての自覚を培う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員のローテーションによる道徳の授業を実施し、全教員で道徳に関わりをもち、計画的に道徳教育を推進していく。</li> <li>本校ボランティア部が地域の善行表彰を受賞した。地域の方から防災訓練など貢献に対する期待が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確実に道徳の授業を実施し、いじめに関する題材を年1回以上計画する。</li> <li>地域の方より、防災訓練、地域スポーツ大会などのイベントに生徒が参加しやすい環境をつくる。</li> </ul>	○

自己肯定感の伸長	・「自己肯定感」及び「自己有用感」「自己効用感」の育成を目指した取組と生徒の実感に関するアンケート	・学校教育活動のあらゆる場面で「自分を知る（自己肯定感）」「やればできる（自己効用感）」「自分は役に立っている（自己有用感）」という感情を伸ばすことを指導目標の一つとする。	・生活意識アンケートの「自分には良いところがある」の肯定的意見が第1回から第3回の平均が75%を超えた。25%の生徒の自己肯定感が高まっていない。	・自己を見つめる生徒は増えているが、実際の成長にはつながっていない。学級活動等で自己肯定感を向上させることが課題である。	○

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

- ・週1回の校内支援委員会や生活指導部会でいじめの未然防止に努めた。今後も体罰のない学校づくりに努める。
- ・生徒の主体的な活動については、生徒会が立案した4つの柱を実施できた。
- ・特別な配慮や外国にルーツをもつ生徒への成功体験を積み重ねられるような授業を展開する。
- ・ICT機器を活用した生徒の主体的な学びの転換が課題である。
- ・生徒の自発的な行動に気づかせる心に響く機会の設定が課題である。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

- ・学校全体で生徒のよさを認め伸ばす授業を展開した。生徒全員が安全、安心に過ごせる学校づくりを推進した。
- ・多様な子どもに対して自己肯定感が高まるように個別の対応をした。
- ・防災訓練、地域スポーツ大会でのボランティア地域貢献が地域での善行表彰につながった。

### (3) その他（学校教育活動全般について）

- ・本校の教育活動の推進において、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。生徒の学校生活に対する評価は概ね良好でした。しかし、学力の定着については、課題が残っています。地域の皆様、保護者の皆様、学校が一丸となって、学習意欲の向上と進路選択の拡充を目指して参りますので、今後ともご意見をお寄せ下さい。